

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第15巻

<https://doi.org/10.15017/4475230>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 15, 2019-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：



13. あとがき

AI は電気羊の夢を見るか？

人間と人工知能（AI）の違いはなにか？ 現代を生きる我々に突きつけられた問いであり、それに対する答えは今後の我々の未来にも影響する。AI はスマホや PC の予測変換から自動運転まで我々の生活を便利にすることに用いられている一方で、近い将来には AI に仕事を奪われる、AI は人間を超える（シンギュラリティ；Singularity）など、AI という言葉には常に負のイメージが付きまとう。

医療の世界にも AI は深く関与してきている。患者の症状から鑑別診断を導き出す AI や医薬品開発をサポートする AI、画像診断支援を行う AI など、様々な領域で AI が活用されはじめた。では、AI の発展に伴って医師の仕事がなくなるのだろうか。患者さんという生身の人間を相手にする医師の仕事が AI に取って代わられることはないのは当たり前だが、TEMDEC が行ってきた医師教育を中心とした遠隔医療はどうだろうか。診断に難渋する症例のディスカッションや教育レクチャー、ライブデモンストレーションなどはニーズがなくなっていくのであろうか。答えは否である。AI が教えてくれるのはデータから導かれる「答え」だけである。どのように考えてそのような「答え」を導いたのかということは決して教えてくれない。医学において重要なことは「答え」を求めることだけでなく、「答え」に至るまでに様々な考えを巡らせることで「知」を得て、より良い医療を提供していくことである。我々の遠隔医療では、「知」に対する欲求を持った参加者が個々の知識や経験に基づいて様々な意見を述べ、「答え」にたどり着くべく熱い議論を交している。

「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？」という小説がある。映画「ブレードランナー」の原作と言われる作品である。この作品ではアンドロイドは大多数の人間よりも知能が高いが、共感(empathy)の能力を持たない。そう、AI には遠隔医療を通じて「知」を得ようとする参加者の気持ちに共感することなどできず、「答え」しか与えてくれない。バンコクにて、AI に取って代わられることのないマッサージを受けながら、TEMDEC の遠隔医療活動が今後も必要とされていくことを確信した。

平成 31 年 3 月

九州大学病院国際医療部 アジア遠隔医療開発センター 副センター長

森山 智彦